

2. 設置する学校の内容 その2

1 法人設立目的

法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、地域と時代の要請に応じる人材を育成することを目的とする。

2 鹿児島国際大学 ・ 鹿児島国際大学短期大学部 (特色)

鹿児島国際大学は1932年に開校した鹿児島高等商業学校を前身にしており、2000年4月、校名を鹿児島経済大学から改称した。九州の商業・経済系の私立大学では最も歴史が古い大学である。「東西文化の融合」「地域社会への貢献」という建学の精神は、地域に根ざし国際性と学際性を兼ね備えた高等教育機関として21世紀に受け継がれている。

鹿児島県内唯一の経済学部は開学以来の伝統をもち、1982年には西日本で初めてとなる社会学部（現福祉社会学部）を立ち上げた。2000年には国際文化学部を新設。2006年4月には地域主権の時代を見据え、地域づくりをリードする人材を育成する「地域創生学科」を経済学部開設した。

大学院は、3学部と連携した経済学研究科、福祉社会学研究科、国際文化研究科の3研究科を擁しており、文系の総合大学となっている。

鹿児島国際大学短期大学部は2001年に大学キャンパスに統合した。1967年に発足した鹿児島短期大学を前身に、情報文化学科と音楽科、専攻科があり、一人ひとりの個性と創造力豊かな人材育成を目指している。4年制大学に併設されたメリットを生かし、進学・就職どちらにも対応できるのが特徴である。

大学、短期大学部ともに、「学生の潜在能力に点火」を合言葉に、教職員一体となって学生支援に取り組んでいる。また教育力を高めるために全学の授業を教職員に公開して、授業改善に取り組む一方、外国語による授業やeラーニング、各種資格取得のためのスキルアップ講座も開設。個々の学生にあった将来を形にするキャリアデザインプログラムも整えた。さらに、生涯学習時代のニーズに対応するために、「生涯学習講座」を拡充している。

キャンパスは、錦江湾に桜島を望む美しい景観と自然が残る彩り豊かな環境にある。そんな中に最新の施設・設備を備えた他大学ではまねのできない絶好の教育環境を誇る。キャンパスのある坂之上地区では本学を核にした「学園都市づくり」の機運が高まり、音楽祭などイベントを通して、地域住民との触れあいも進む。知識や教養を身につけるだけでなく、人間味あふれる人材育成が可能な“アカデミックパーク”になっている。

3 鹿児島高等学校

(教育目標)

「東西文化の融合」「地域社会への貢献」という建学の精神に基づき、心豊かな人格の完成をめざし、国家及び社会の発展に寄与する有為な人材を育成することを目標としている。

(教育方針)

- ・校訓「克己」の精神に則って、自分の心の中の邪念・欲望に打ち勝ち、自らの人生を自律的に生きる力を培う。
- ・校訓「謙虚」の精神に則って、自分の未熟さを自覚し、それを起点として向上心を涵養し、誠実

で真摯な人格を培う。

- ・校訓「礼節」の精神に則って、礼儀と節度を重んじ、社会の一員として尊敬される品性と態度を培う。

(特色)

・普通科

4年制大学をはじめ短期大学等の上級学校への進学を中心に、生徒一人ひとりの個性や適性にあった指導をしている。

2年次からは、文系・理系に分かれ、志望進路や希望に応じた科目の履修を選択できるカリキュラムを設定。同一学園である国際大学、同短期大学部はもちろん、多くの大学・短期大学からの指定校推薦を受け、進路選択の幅を広げている。

・英数科

国公立・有名私立大学への進学を目指している。

少数精鋭で難関大学を目指す「特進コース」、幅広く自分の願いを叶える「英数コース」の2コース制でさらに学力アップを図り、東京大学や九州大学などの国公立大学から、早稲田大学・慶応大学などの有名私立大学進学を目指し、さらには英数科だけの東京理科大学などの指定校推薦もあり可能性をさらに広げている。

・情報ビジネス科

基礎学力の習得に加え、簿記・情報処理・ワープロ・電卓などの資格取得を目指している。

2.3年次には、一人ひとりの興味関心・進路に応じたカリキュラムになっており、就職のみならず、同一学園である国際大学、同短期大学部への進学、専門学校への進学など 進学希望者へもしっかりとサポートできる体制が整っている。

4 鹿児島修学館中学校・鹿児島修学館高等学校

(教育方針)

鹿児島修学館は、『7つの習慣 J®』を導入し、生徒の内発的動機付けを高めることに努め、中高一貫教育を基本としながらも他高校への受験も可能として、時代・社会の状況に柔軟に対応する。

(特色)

人間力や社会人基礎力を育てるために

I 共通部分

1. 「7つの習慣 J®」の実施

世界的ベストセラー書籍「7つの習慣®」をもとに開発された教育プログラム『7つの習慣 J®』を本年度から導入。学校としての導入は、南九州で初、九州でも2校目。生徒の内発的な動機づけの育成に絶大な効果が期待できる取組。

第1の習慣 自分が選択する

第2の習慣 終わりを考えてから始める

第3の習慣 一番大切なことを優先する

第4の習慣 win-winを考える

第5の習慣 まず相手を理解してから、次に理解される

第6の習慣 相乗効果を発揮する

第7の習慣 自分を磨く

2. 修学館版「よのなか科」の実施

「よのなか科」とは、教科書では伝えきれない生きた社会科を生徒に学んでほしいとの思いで藤原和博氏（元東京都杉並区和田中学校校長）が提唱されたユニークな授業。修学館版「よのなか科」はそれを参考に各界の専門家（弁護士、公認会計士、社会保険労務士、医師など）を講師に招き、自身の仕事内容紹介や専門家から見た「よのなか」を語ってもらい職業観を養う目的でPTA主催事業として20年度から実施。全体を中学生・高校生グループに分けて、そのグループに合った内容で保護者・教職員も一緒になって学ぶ講座。

3. 食堂設置(食育の実施)

4. 学業特待制度

5. 少人数ならではのきめ細かい学習指導・生活指導（1学年80名）

II 中学部

1. 他校受験が可能（3年時に自分で進路の選択が可能）
2. 中学課程では徹底して中学内容の実力を養成
3. 他高校受検しても、修学館高校を受験し合格すれば再入学を許可

III 高校部

1. 入試システムの見直し（鹿児島県公立高校入試に準拠。本人の得点も開示）
2. 学習進度の工夫（内部進学者と進度の違いをなくす）
3. 徹底した受験指導（希望難関大学へのチャレンジを全力でサポートする体制）

5 鹿児島幼稚園

(教育目標)

恵まれた自然環境を生かして、元気で明るくのびのびと活動する心豊かなたくましい子どもを育てることを目指している。

(特色)

1. 子どもたちが、自分から意欲的に活動する保育に努めます。どの子どもやる気いっぱい、自分の思いや考えをすすんで表現できるように援助します。
2. 基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、なかよく助け合い、思いやりのあるやさしい心を養います。クラスを解いてのたてわり保育や、動物の世話・植物の栽培など豊かな体験を通して、温かさや、やさしさの輪が広がっています。
3. 鹿児島国際大学附属幼稚園として、職員は望ましい教育環境や教育内容について研修を深め、保育に当たっています。子どもたちは、多くの実習生に接して、社会性を身に付け、園での楽しさも増しています。
4. 広い(20,000㎡)緑のグラウンドが、子どもたちの強い心と体を培うとともに、保護者の方々の駐車場としても役立っています。
5. 預かり保育や「親子で遊ぼう」(在園児親子対象)「ちびっこクラブ」(未就園児親子対象)「子育て講演会」など、地域の子育てセンターとして、子育てをする親を応援しています。